

令和5年度 第1回 成田市総合計画審議会会議録

1 開催日時

令和5年8月29日（火） 午後3時00分～午後4時35分

2 開催場所

成田市役所 3階 第二応接室（成田市花崎町760番地）

3 出席者

（委員）

野平会長、山崎副会長、宮委員、真行寺委員、富岡委員、金崎委員、築比地委員、浅野委員、高塚委員、高橋委員

（事務局）

企画政策部 鬼澤部長

企画政策課 金光課長、弘海課長補佐、大胡係長、関主任主事

4 議事（要旨）

（1）「NARITA みらいプラン」第3期基本計画（素案）について

- ・「NARITA みらいプラン」における第2期基本計画が、令和5年度に最終年度を迎えることから、令和6年度から始まる第3期基本計画の策定にあたり、第3期基本計画（素案）について説明を行った。

（2）「NARITA みらいプラン」第9次実施計画（案）について

- ・「NARITA みらいプラン」実施計画についてローリング作業を実施し、令和6年度から令和8年度までの3か年を対象とする第8次実施計画について説明を行った。

5 質疑等

（1）「NARITA みらいプラン」第3期基本計画（素案）について

□先日、仕事でアパートの確認に行った際に一人で住んでいる高齢者が亡くなってしまっているという機会を経験した。以前は地域コミュニティの中で高齢者との連絡体制が整っていたかと思うが、現在は地域コミュニティの希薄化が進み、地域内での見回りは難しい状況と感じているが、市ではどのような対策を考えているか。

→高齢者の独居対策について、社会環境の変化により自治組織への加入率も低下傾向にあるなど地域コミュニティの在り方が以前と変化していると認識している。

担当課では乳酸菌飲料の配達や自動音声による見守り支援を実施してきたが、高齢化の進展により独居高齢者への支援はますます必要になってくると考えており、担当課と共有して支援サービスの充実を図ってまいりたい。

□資料 23 ページに児童生徒の「健やかな心と体力の増進を図ります」とあるが、先日学校運営協議会の中で、中学生の部活動が地域に移行されると伺ったが、中学生に対して均等にスポーツの機会を提供することができなくなるのではないかと懸念する。

また、競技人口の少ないスポーツや文化系の部活動などは実施されなくなってしまうのではないかと懸念しているが市ではどのように考えているか。

→県のガイドラインに基づいて土曜・日曜の部活動について地域移行を進める予定である。

具体的には今年度よりモデル事業として成田西中学校の柔道部について実施したのち、令和6年度に10部活を移行、翌令和7年9月に地域移行を完了する計画である。

当該事業には受益者負担の問題など様々な課題があると認識しており、教育委員会で課題の洗い出しを行いながら、トラブルの無いように地域移行を進めていきたいと考えている。

□第2期基本計画からの変更点として、子育て支援に関する変更点が多い印象があるが、私としても年々園児の減少を感じており、市としても出生数の減少を改善しようとの考えだと思うが、出生数の減少に加え、これまでのコロナ禍をとおして、外部接触の機会が極端に少ない子どもが増えていると感じている。

特に、外部接触の機会が少ないことに加え、入園時の低年齢化も進んでいることから、親との交流も減っていることが子の発達度に少なからず影響があると考えている。

このような状況下においては、発達障害になった子を小学校に入る前段階で行政が支援する必要があると考えており、支援内容を計画に盛り込むべきと思うが市ではどのように考えているか。

→市としては、まず出生数の減少に伴う少子化への対策として結婚や妊娠出産への支援を拡大するなど少子化対策に注力していきたいと考えている。また、委員のご指摘のとおりコロナの弊害は様々な範囲で出ていると想定されるので、子の発達度への影響については担当課に共有し、対策等について今後検討していきたい。

□資料 13 ページに「結婚や出産の希望がかなうまちをつくる」とあるが、この表現に違和感がある。この表現であると結婚や出産の希望がかなわない世の中になっているように聞こえてしまうが、アンケート調査等により根拠があってこのような表現をしているのか伺いたい。

→市民アンケートにて「理想の子どもの数」と「現状で予定している子どもの数」について

それぞれ調査を実施し、その人数の差が年を追うごとに大きくなる傾向にあることから、それぞれの家庭で持つ子供の人数については希望が叶っていないと判断している。

また結婚についても、コロナによる出会いの場の減少や経済的不安の増大などにより、結婚の希望が叶いにくい状況であると言われていたことから、結婚から妊娠・出産まで継続的な支援を実施していく意味を込めてこのような表現とした。

□資料 24 ページ「学校・家庭・地域が一体となった教育体制をつくる」とあるが、学校で綱引き大会を実施する際に、教員から働き方改革のため、綱引き大会への協力は難しいと回答があった。以前は学校・家庭・地域が三位一体の協力体制で実施してきた行事も先生方の働き方改革をするために、教員の協力が全くなくなるのはどうなのか。

近年ではPTAの運営も難しいと聞いており、子どもたちの環境が守れておらず、かわいそうではないか。

→教員の負担を軽減するための働き方改革を進めるために、部活動の地域移行など進められているが、学校・家庭・地域のどこかに集中してひずみが来ないようにバランスをとりながら進められるよう教育委員会で調整しながら子どもを育む環境づくりを進めたいと考えている。

□資料 17 ページに「地域ぐるみで高齢者一人ひとりの生活を総合的に支えます」とあるが、地域コミュニティが希薄になっている中で高齢者のサポートを地域にお願いする姿勢はどうなのか。

特に、子と一緒に住む高齢者などは、地域包括支援センターなどの情報を子が入手してサービスを受けられることができるが、一人暮らしの高齢者は情報を得ることすら難しい状況にあると思うので、自ら情報を入手することができない高齢者をケアしていただきたい。

→委員ご指摘のとおり情報の入手が困難な高齢者などを支援する目的から、災害発生時などに自ら避難することが難しい方の名簿を作成して関係者に提供することで、地域で支援が必要な方の情報を共有して対応できるような環境づくりを実施しているが、今後も高齢者それぞれの状況に応じて対応策を講じる必要があると考えている。

(2) 「NARITA みらいプラン」第9次実施計画(案)について

□資料 28 ページ「新規就農支援事業」とあるが、国で実施している既存の新規就農支援事業については後継者に対して補助金が出にくい仕組みとなっており、親と別の農作物を耕作しないと交付されない仕組みとなっている。市で実施する事業についてはどのような要件で交付されるのか。

→国の制度とあわせて市としても農業経営を支援する体制を強化していきたいと考えており、本市の単独事業として実施するものである。具体的な補助要件は今後担当課で検討していくことになるので、委員のご意見を共有して制度設計できればと思う。

□成田市で米の新規就農をすることは、かなりハードルが高く、ニーズに合っていない事業をこのように取り上げるのはどうかと思う。また、農業に限らず、工業・商業など人間がやっていることを大前提として、ハード事業だけでなく住んでいる住民にマッチした事業を検討していただきたい。

→実施計画にはその事業が新規であったり大きな変更があったものを掲載している。新規就農にも様々な課題があると認識しているが、市としても支援を拡充するために取り組みを進めたいと思っているので、委員からの意見を共有しながら農業支援がより良いものとなるよう進めてまいりたい。

□住民が便利になるようにデジタル化を促進していくことについて疑念はないが、やはりデジタル活用に不慣れな高齢者に情報が行き届きにくくなると思うので、高齢者などの情報弱者に対する支援もしっかりお願いしたい。

→デジタル化による情報格差を解消するために担当課でデジタルデバインド対策に関する事業を実施していく予定であり、高齢者をはじめとしたデジタルに不慣れな方々への支援もしっかりと進めてまいりたい。

□資料 27 ページの「観光 PR 事業」について、成田空港には多くの外国人が利用していることと思うが、一駅で移動できる成田駅周辺の市街地への外国人観光客が少ない印象がある。外国人観光客に対して SNS や Y o u T u b e などを活用した効果的な PR を実施して、成田空港を利用するすべての外国人が成田市内で観光していただければ経済活性化につながると思うので、外国の方々への効果的な PR 方法を検討したほうがよいと思う。

→成田空港を利用するが、成田市で観光することなく東京へ移動してしまう外国人観光客が多いことは大きな課題であると認識している。外国人観光客にも成田観光を楽しんでいただきたいと考えており、これまでトランジットツアーや著名人からの情報発信などを実施してきたが、成田空港への外国人渡航客数が回復傾向にあるので、これまで以上に訪日外国人旅行者に向けて観光情報の発信を行っていきたいと考えている。

また来年は、市制施行 70 周年を迎え、市民と共に祝う記念事業を開催する予定であるので、成田の魅力を認識いただけるきっかけとなるよう、外国人観光客にも PR を実施していきたいと考えている。

□市では日ごろ道路の整備事業を実施してもらっているが、街路樹の整備など、路上に関して市民が危険だと感じる部分を改善していただきたいと要望する。

→具体的な場所を伺い、担当課に共有させていただく。

□農道に関して、近年お米農家に関しては耕作面積が拡大すると同時に、使用する機械も大型化が進んでいるのだが、産業道路は農耕車が優先という認識がなく自分勝手に通行する

者があり、収穫時期などの作業進捗に影響がでてしまう。市でも農道が農作業車優先であることを市民に広く周知していただきたい。

6 傍聴

4名

以上